下 和 泉 小 だ よ り　9月号　　令和5年8月28日

50 周年スローガン

未来へ向かって 絆をつなごう ～笑顔満開 下和泉～

横浜市立下和泉小学校

理科を楽しむ。

理科専科　矢田俊彦

コロナ禍を超え、4 年ぶりに様々な夏の行事、風物詩が戻ってきた今年の夏休み、皆様のご家庭ではどのように過ごされましたでしょうか？

学校の花壇や畑に目を移すと、誇らしげに咲いていたひまわりが種を実らせ、重そうに頭を下げています。大きなヘチマやヒョウタンが実をつけています。

草むらのバッタやコオロギたちもすっかり大きくなり、あちこち飛び回っているので、これからの季節、子どもたちにとって、楽しい遊び相手となってくれることでしょう。

このように夏は暑く厳しいですが、動植物たちにとっては、大きく育ち、実を結ばせていくためにとても大切な季節であったことがわかります。

私は子どもたちにとっても同じなのだと思っています。思い思いに夏休みを楽しんできた子どもたちもそれぞれに成長し、実を結んできていると。

さて、私もまた、二か月ぶりに「理科の先生」という役目が戻ってきました。

私が考える「理科を勉強する意味」は次のようなことです。

① 知的好奇心を養う

身の回りには不思議なことがたくさんあります。「不思議だな」、と感じる出来事や自然の様子。「なぜそのようになるのか？」と不思議に感じ、「調べてみたい、知りたい。」と思う、新しいものへの興味や好奇心、「もっと知りたい。」と思うエネルギーは、勉強をする上でとても大切なことです。

② 仕組みを知る

次に、理科を通して「なぜそのようになるのか？」と考える経験をすることは非常に大切なことと考えます。

例えば、物を持つときにみんなで持つと楽になるとか、持ち方を変えるといいということは、感覚的には理解をしていることかもしれません。ですが、一歩進めて、物の重心との位置関係を理解しておくと、いろいろな場面に遭遇しても、よりうまく運ぶことができます。

このように物事の仕組みを知ることで、新しい疑問に出会った時も、もっている知識を使い、より深く考えることができます。

深く考えることにより、「この場合はどうなるのだろうか？」といった新たな疑問や問題が生まれてくるでしょう。こうなれば、子ども科学者が誕生したといってもいいかもしれません。

そして、③ 身を守る

大げさなタイトルですが、「思わぬところで思わぬ事故」ということが発生します。

ここでは詳しく語ることはしませんが、「多分大丈夫。」とか「この前は何ともなかったから…。」ということで、なんとなくやってしまうことがあります。

しかし、様々な物や事象の変化を事前に学んでおくことで、「もしかしたら？」という考えをもつことができるようになると思います。この考えを持っておくことで、日々の生活の中で身を守る ことにつながるものはたくさんあると思います。

理科は、教科書に書いてある事柄をそのまま覚える学習ではありません。実際にあるものにふれ、感じ、考え、次に生かす。ここに一人ひとりの個性や感性を働かせていく面白さがあります。

子どもたちが身の回りの自然や対象となる事物をどのような感性でとらえ、自分のものとしていくのかを楽しみに見つめながら、9 月以降も、出合わせ方を工夫して、楽しく学習していくことができるよう取り組んでいきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。